

【4.1】

数列  $\{a_n\}$  を次式によって定義する.

$$\begin{cases} a_1 = 2 \\ a_{n+1} = \prod_{k=1}^n a_k + 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \end{cases} \dots\dots(1.1)$$

すべての正整数  $n$  に対して, 不等式

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k} < 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \dots\dots(1.2)$$

が成り立つことを示せ.

【解答】

$n = 1, 2, 3$  に対して, (1.2) の左辺を計算すると,

$$\frac{1}{a_1} = \frac{1}{2}, \quad \frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} = \frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{5}{6}, \quad \frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \frac{1}{a_3} = \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{7} = \frac{41}{42}$$

この実験により,

$$\frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \dots + \frac{1}{a_n} = \frac{a_1 \times \dots \times a_n - 1}{a_1 \times \dots \times a_n} \dots\dots(1.3)$$

の成立が予想できるので, これを帰納法で示す.

ある番号  $n$  に対して, (1.3) の成立を仮定するとき,

$$\begin{aligned} \frac{1}{a_1} + \dots + \frac{1}{a_n} + \frac{1}{a_{n+1}} &= \frac{a_1 \times \dots \times a_n - 1}{a_1 \times \dots \times a_n} + \frac{1}{a_{n+1}} \\ &= \frac{a_1 \times \dots \times a_n \times a_{n+1} - a_{n+1} + a_1 \times \dots \times a_n}{a_1 \times \dots \times a_n \times a_{n+1}} = \frac{a_1 \times \dots \times a_n \times a_{n+1} - 1}{a_1 \times \dots \times a_n \times a_{n+1}} \quad (\because (1.1)) \end{aligned}$$

即ち,

$$\frac{1}{a_1} + \dots + \frac{1}{a_n} + \frac{1}{a_{n+1}} = \frac{a_1 \times \dots \times a_{n+1} - 1}{a_1 \times \dots \times a_{n+1}} \dots\dots(1.4)$$

また,  $n = 1$  のときは上の実験で (1.3) の成立が確認されている.

従って, 帰納的にすべての番号  $n$  に対して (1.3) は成立する.

$$\therefore \frac{1}{a_1} + \dots + \frac{1}{a_n} = \frac{a_1 \times \dots \times a_n - 1}{a_1 \times \dots \times a_n} < 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \dots\dots(1.5)$$

即ち, 不等式 (1.2) の成立が示された.

[Note] 証明において,  $a_n \geq 2 (\forall n)$  は (1.1) による  $\{a_n\}$  の定義から明らかである.

即ち, 等式 (1.5) 右辺の分子, 分母はいずれも正であることが保証されている.

【4.2】

正整数  $n$  に対して、 $(2 - \sqrt{3})^n$  という形の無理数を考える.

これらの無理数は何れもそれぞれ適当な正整数  $m$  によって、 $\sqrt{m+1} - \sqrt{m}$  の形に表されることを示せ.

【解答】 - 帰納法 -

関係式

$$(2 - \sqrt{3})^n = a_n - \sqrt{3}b_n \quad \dots\dots(2.1)$$

によって整数列  $\{a_n\}, \{b_n\}$  を定めるとき,

$$(2 - \sqrt{3})^{n+1} = (a_n - \sqrt{3}b_n)(2 - \sqrt{3}) = (2a_n + 3b_n) - (a_n + 2b_n)\sqrt{3}$$

より,

$$\begin{cases} a_{n+1} = 2a_n + 3b_n \\ b_{n+1} = a_n + 2b_n \end{cases} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.2)$$

なる連立漸化式が導かれる.

一方, (2.1) は

$$(2 - \sqrt{3})^n = a_n - \sqrt{3}b_n = \sqrt{a_n^2} - \sqrt{3b_n^2} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.3)$$

と表せるので,

$$a_n^2 - 3b_n^2 = 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.4)$$

の成立を示せばよいことになる.

連立漸化式 (2.2) により,

$$a_{n+1}^2 - 3b_{n+1}^2 = (2a_n + 3b_n)^2 - 3(a_n + 2b_n)^2 = a_n^2 - 3b_n^2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.5)$$

即ち,

$$a_n^2 - 3b_n^2 = a_{n-1}^2 - 3b_{n-1}^2 = \dots\dots = a_1^2 - 3b_1^2 \quad \dots\dots(2.6)$$

また, (2.1) において  $n = 1$  として,

$$a_1 - \sqrt{3}b_1 = 2 - \sqrt{3} \iff a_1 = 2 \wedge b_1 = 1 \quad \dots\dots(2.7)$$

従って, (2.6), (2.7) により,

$$a_n^2 - 3b_n^2 = \dots\dots = a_1^2 - 3b_1^2 = 4 - 3 = 1 \quad \dots\dots(2.4)$$

以上により, 題意は示された.

[Note]  $\{a_n\}, \{b_n\}$  が整数列となる根拠は (2.2) にある.

即ち, ある番号  $n$  に対して,  $a_n, b_n$  を整数と仮定するとき,

$$a_{n+1} = 2a_n + 3b_n : \text{整数} \wedge b_{n+1} = a_n + 2b_n : \text{整数}$$

更に,  $a_1 = 2, b_1 = 1$  であるから帰納的にすべて整数となる.

【別解】 - 共役数 -

関係式

$$(2 - \sqrt{3})^n = a_n - \sqrt{3}b_n \quad \dots\dots(2.1)$$

によって整数列  $\{a_n\}, \{b_n\}$  を定めるとき, 両辺の共役数を考えて,

$$(2 + \sqrt{3})^n = a_n + \sqrt{3}b_n \quad \dots\dots(2.8)$$

(2.1), (2.8) の辺々を掛け合わせて,

$$(2 - \sqrt{3})^n (2 + \sqrt{3})^n = (a_n - \sqrt{3}b_n)(a_n + \sqrt{3}b_n) \iff a_n^2 - 3b_n^2 = 1 \quad \dots\dots(2.9)$$

(2.1), (2.9) により,

$$(2 - \sqrt{3})^n = \sqrt{a_n^2 - 3b_n^2} = \sqrt{a_n^2 - 1} \quad \dots\dots(2.10)$$

(2.10) より,

$$(2 - \sqrt{3})^n = \sqrt{m+1} - \sqrt{m} \quad \dots\dots(2.11)$$

を満たす正整数  $m = a_n^2 - 1$  が存在する.

[Note] (2.8) において, 共役数の性質  $(\bar{\alpha})^n = \overline{\alpha^n}$  を既知として用いた.  
入試でこの性質を用いる場合は, 証明を与えて用いた方が安全である.

[Note]  $\{a_n\}, \{b_n\}$  はペル方程式

$$x^2 - 3y^2 = 1 \quad (x, y: \text{正整数})$$

の一般解 (必要十分な解) を無限に生成する整数列である.

**【4.3】**

O を中心とする円周上に異なる 3 点  $A_0, B_0, C_0$  が右回りに配置されている。

整数  $n \geq 0$  に対して, 点列  $\{A_n\}, \{B_n\}, \{C_n\}$  を次の規則によって定義する。

- $A_{n+1}$  は弧  $A_n B_n$  を 2 等分する点である。ただし, 弧  $A_n B_n$  は  $C_n$  を含まない
- $B_{n+1}$  は弧  $B_n C_n$  を 2 等分する点である。ただし, 弧  $B_n C_n$  は  $A_n$  を含まない
- $C_{n+1}$  は弧  $C_n A_n$  を 2 等分する点である。ただし, 弧  $C_n A_n$  は  $B_n$  を含まない

$\angle A_n O B_n = a_n$  とするとき, 次の問いに答えよ。

(1) すべての整数  $n \geq 0$  に対して,

$$4a_{n+2} - 2a_{n+1} + a_n = 2\pi \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$$

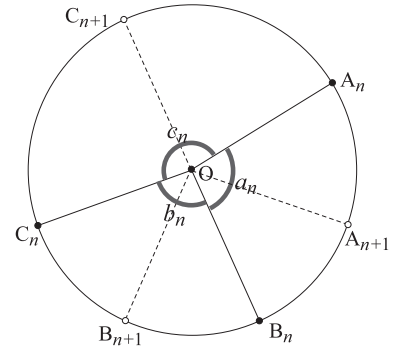
であることを示せ。

(2)  $a_{3n}$  を  $a_0$  を用いて表せ。

**【解答】**

(1)  $\angle B_n O C_n = b_n, \angle C_n O A_n = c_n$  と置くと,  $n \geq 0$  に対して,

$$\begin{cases} a_n + b_n + c_n = 2\pi & \dots\dots (3.1) \\ a_{n+1} = \frac{1}{2}(a_n + b_n) & \dots\dots (3.2) \\ b_{n+1} = \frac{1}{2}(b_n + c_n) & \dots\dots (3.3) \\ c_{n+1} = \frac{1}{2}(c_n + a_n) & \dots\dots (3.4) \end{cases}$$



(3.1), (3.3) により,

$$b_{n+1} = \frac{1}{2}(2\pi - a_n) = \pi - \frac{1}{2}a_n \iff b_n = \pi - \frac{1}{2}a_{n-1} \quad \dots\dots (3.5)$$

(3.5) を (3.2) に代入して,

$$a_{n+1} = \frac{1}{2}\left(a_n + \pi - \frac{1}{2}a_{n-1}\right) \iff 4a_{n+2} - 2a_{n+1} + a_n = 2\pi \quad (n = 0, 1, 2, \dots) \quad \dots\dots (3.6)$$

(2) (3.6) を同値変形して,

$$4\left(a_{n+2} - \frac{2\pi}{3}\right) - 2\left(a_{n+1} - \frac{2\pi}{3}\right) + \left(a_n - \frac{2\pi}{3}\right) = 0 \quad (n = 0, 1, 2, \dots) \quad \dots\dots (3.7)$$

ここで,  $a_n - \frac{2\pi}{3} = x_n$  と置けば,

$$4x_{n+2} - 2x_{n+1} + x_n = 0 \quad (n = 0, 1, 2, \dots) \quad \dots\dots (3.8)$$

(3.8) を同値変形して,

$$x_{n+3} = \frac{2x_{n+2} - x_{n+1}}{4} = \frac{1}{2}x_{n+2} - \frac{1}{4}x_{n+1} = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}x_{n+1} - \frac{1}{4}x_n\right) - \frac{1}{4}x_{n+1} = -\frac{1}{8}x_n \quad \therefore x_{n+3} = -\frac{1}{8}x_n \quad \dots\dots (3.9)$$

(3.9) より,

$$x_{3n} = \left(-\frac{1}{8}\right)^n x_0 \iff a_{3n} = \left(-\frac{1}{8}\right)^n \left(a_0 - \frac{2\pi}{3}\right) + \frac{2\pi}{3} \quad \dots\dots (3.10)$$

【4.4】

与えられた正整数  $k$  に対して、数列  $\{a_n\}$  を

$$a_1 = 0, \quad a_{n+1} = \left\lceil \frac{a_n + k}{3} \right\rceil \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定義する。ただし、 $[x]$  は実数  $x$  を超えない最大の整数を表す。

(1)  $k = 8, k = 9$  に対して、一般項  $a_n$  を求めよ。

(2) すべての正整数  $n$  に対して、

$$a_n \leq \frac{k-1}{2} \wedge a_n \leq a_{n+1}$$

が成り立つことを示せ。

(3) ある番号  $n$  に対して、 $a_n = a_{n+1}$  が成り立つとき、

$n$  以上のすべての整数  $m$  に対して、 $a_n = a_m$ であることを示し、その  $a_n$  を求めよ。

【解答】

(1) 題意の漸化式を用いて、

$$\begin{cases} k = 8 & \dots\dots a_1 = 0, a_2 = 2, a_n = 3 \quad (n \geq 3) \\ k = 9 & \dots\dots a_1 = 0, a_2 = 3, a_n = 4 \quad (n \geq 3) \end{cases} \dots\dots(4.1)$$

(2) ある番号  $n$  に対して、

$$a_n \leq \frac{k-1}{2} \dots\dots(4.2)$$

を仮定するとき、

$$a_{n+1} = \left\lceil \frac{a_n + k}{3} \right\rceil \leq \left\lceil \frac{1}{3} \left( \frac{k-1}{2} + k \right) \right\rceil = \left\lceil \frac{1}{2}k - \frac{1}{6} \right\rceil \iff a_{n+1} \leq \left\lceil \frac{1}{2}k - \frac{1}{6} \right\rceil \dots\dots(4.3)$$

(4.3) において、 $k$ : even の場合、

$$\left\lceil \frac{1}{2}k - \frac{1}{6} \right\rceil = \frac{1}{2}k - 1 = \frac{k-2}{2} < \frac{k-1}{2} \dots\dots(4.4)$$

$k$ : odd の場合、

$$\left\lceil \frac{1}{2}k - \frac{1}{6} \right\rceil = \left\lceil \frac{k-1}{2} + \frac{1}{3} \right\rceil = \frac{k-1}{2} \dots\dots(4.5)$$

(4.3), (4.4), (4.5) により、 $k$ の偶奇に依らず、

$$a_{n+1} \leq \frac{k-1}{2} \dots\dots(4.6)$$

また、 $n = 1$  のとき、

$$a_1 = 0 \leq \frac{k-1}{2} \quad (\because k: \text{正整数}) \dots\dots(4.7)$$

が成り立つのは明らかである。

従って、帰納法は完結する。

次に、ある番号  $n$  に対して、

$$a_n \leq a_{n+1} \quad \dots\dots(4.8)$$

を仮定するとき、

$$\frac{a_n+k}{3} \leq \frac{a_{n+1}+k}{3} \implies \left[ \frac{a_n+k}{3} \right] \leq \left[ \frac{a_{n+1}+k}{3} \right] \quad \therefore a_{n+1} \leq a_{n+2} \quad \dots\dots(4.9)$$

また、 $n=1$  のとき、

$$a_1 = 0 \wedge a_2 = \left[ \frac{0+k}{3} \right] \quad (k: \text{正整数}) \quad \therefore a_1 \leq a_2 \quad \dots\dots(4.10)$$

従って、帰納法は完結する。

(3) ある番号  $n$  に対して、 $a_n = a_{n+1}$  が成り立つとき、

$$\left[ \frac{a_n+k}{3} \right] = \left[ \frac{a_{n+1}+k}{3} \right] \iff a_{n+1} = a_{n+2} \quad \dots\dots(4.11)$$

(4.11) により、

$$\left[ \frac{a_{n+1}+k}{3} \right] = \left[ \frac{a_{n+2}+k}{3} \right] \iff a_{n+2} = a_{n+3} \quad \dots\dots(4.12)$$

以下、この操作を繰り返して、

$$a_n = a_m \quad (m \geq n) \quad \dots\dots(4.13)$$

このとき、

$$a_n = a_{n+1} = \left[ \frac{a_n+k}{3} \right] \quad \therefore a_n = \left[ \frac{a_n+k}{3} \right] \quad \dots\dots(4.14)$$

このとき、Gauss 記号の定義から、

$$a_n \leq \frac{a_n+k}{3} < a_n+1 \quad (\because a_n: \text{正整数}) \iff \frac{k-3}{2} < a_n \leq \frac{1}{2}k \quad \dots\dots(4.15)$$

ここで、(4.2) を考慮して、

$$\frac{k-3}{2} < a_n \leq \frac{k-1}{2} \iff \frac{k-1}{2} - 1 < a_n \leq \frac{k-1}{2} \iff a_n \leq \frac{k-1}{2} < a_n+1 \quad \dots\dots(4.16)$$

このとき、Gauss 記号の定義から、

$$a_n = \left[ \frac{k-1}{2} \right] = \begin{cases} \frac{k-1}{2} & (k: \text{odd}) \\ \frac{k-2}{2} & (k: \text{even}) \end{cases} \quad \dots\dots(4.17)$$

[Note] 実数  $x$  と整数  $m$  に対して、 $[x] = m$  のとき、

$$m \leq x < m+1 \iff [x] \leq x < [x]+1$$

が成り立つので、(4.15), (4.16) ではこれを用いた。